



第11章

過越祭と
キリストの
苦難



さあ、過越祭の食事の準備をしに行ってください。

私は苦難を迎える前に、こうしてあなた方と過越しの祝いの食事を共にしたかったのです。私は神の国が、この地上に立ち上がるまでは、こうして食事をするつもりでしようから。神の国が立ち上がった暁には、あなた方は私とテーブルを共にイスラエルの12の部族の裁きをする王座に座るのです。

いいですか、事が現実になった時に、私が言ったことが事実であったと分るでしょうが、詩篇41:9に「私のパンを食べている者まで私に向かってかかとを上げます」とあるように、私と共に食事をしている者の中に私を裏切る人がいます。



まさか!



人の子は、定められたとおり去って生きます。しかし、人の子を裏切るその人はわざわざいす。

主よ、まさか私を疑っているのでは? 私は決して、あなたを裏切ることはありません。

主よ、私でもありません!



師よ、私も決してあなたを裏切るなど断じてありません。



私と共に、この器にパンを浸しているあなたの方の一人です。



我々全員が、この中にパンを浸しています。

ヨハネは小声で、イエスに一体誰が裏切り者か尋ねた。「私がパンを浸し、それを与えた人です。」



師よ、私のことを言っておられるのですか？

いや、そうだ。



イエスはパンを浸すと、それをユダに与えた。



やるのなら、さっさと済ましてしまいなさい。



ユダはどこへ行くんだろう？

師は、彼にどこかへ行くように急かされたようだ。金の入った袋を持っていたから、貧しい人へ施しをしに行くつもりだろう。



さて、私の大切な弟子達よ、いよいよ私が神の栄光に包まれる時が来ました。もう時間はあまり残っていません。

あなた方は、私に付いてくるとはできません。しかし、私はあなた方に新しい錠を残して行きましょう。互いに愛し合いなさい。互いを思いやり愛することで、人々はあなた方が私の弟子だと分るでしょう。

主よ、たとえ皆がそうであっても、私は決してそのようなことはしません。

ペテロ、鶏が二度鳴く朝を迎える前に、三度あなたは私のことを知らないと言うです。

ゼカリヤの預言に、正に今の時を表わす言葉があります。「私は羊飼いを打つ。すると、羊の群れは散らされる」。私が復活した時には、私はあなた方より先にガリラヤへ行きます。今夜、あなた方は私を見知らぬ者の様に接することでしょう。

あなたを無視する位なら、その前に私もあなたと逝きます。

あなたを無視なんて出来ません!

そうです!たとえ拷問を受けようとも、主のことを知らないなどと言うはずがありません。



聖書は明確ですよ。あなた方は私を拒否します。「彼はまるで罪人のような扱いを受けるだろう」と私のことをイザヤが預言しています。

ペテロ、私に対する信仰心が揺らいでも、再び私を信じるその時には、あなたの兄弟達を強く信仰に導きなさい。



地球の恵みを与え我らが神、宇宙の主よ、あなたに栄光あれ。

このパンは私の身体を表わしています。これを、あなた方に分け与えましょう。過越しの日を迎える度に私を思い出しなさい。



私の身体はあなた方の為に引きちぎられます。



さあ、取って食べなさい。



この一杯のぶどう酒は、私が流す血をもって、あなた方の罪を償うという契約を表わします。



少しずつ分けて皆で飲み干しなさい。神の国で、再びあなた方と出会うまで私はもう、ぶどう酒を飲むことはないでしょう。



どうか、私が復活するその日まで、その度に私の死を思い出してください。



私が言ったことで恐れてはいけません。神の国にはあなた方の場所があります。私が去っても、あなた方の為に場所を用意しておきます。そして、私が戻って来た時には、あなた方を私と共にいる場所に連れて行きます。



しかし、主よ、あなたはどこへ行かれるのでしょうか。そして、あなたの元へ行く道が分りません。



まだ分らないのですか？ この私こそが道であり、真理そして命なのです。私を通してでなければ、誰も父の御元に行くことができません。あなた方が私のことを知っているなら、天の父のことも知っているはずですし、見たこともあるはずですよ。



主よ、私たちに父を見せてください。そうすれば満足します。

ピリポ、こんなに長い間私と一緒にいたのに、私を知らないのですか。私を見た人は、父を見たのです。父と私は一つなのですから。



私は決して、あなた方を見捨てたりしません。必ず戻ります。私が見えなくなりますが、あなた方に聖霊を送りましょう。あなた方の傍にいて真実に導いてくれるでしょう。

私を愛し信じているならば、錠を守りなさい。何人も壊すことの出来ぬ安穩を、あなた方に上げましょう。




私を愛してくれているなら、あなた方は喜ぶべきなのです。なぜなら、私は父の元に行くからです。以前、その話をしたのは、事が起きた時に信じられるようにと想ったことです。


さあ、立ち上がり讚美歌を歌いましょう。そして、祈りに庭園へ行きましょう。



イエスと11人の弟子達は、最後の讚美歌を合唱した。



静かに付いて来なさい。いつもの場所に行き祈りましょう。



何度も言う様に、私があなたの方の前からいなくなっても悲しむ必要はないのですよ。暫くしたら会えるのですから。

嘆きは、やがて大きな喜びに変わるはずですよ。私は天の父によって使われ、そして父の元へ戻って行くのです。

あなたのお話はとてもよく解りました。私共はあなたを信じます。


本当に信じられますか？やがて、あなた方は私を残して去って行きます。祈りを捧げに行く間、少しここで待っていて下さい。

天の父よ、時は来ました。あなたの命じられた事はすべて済ませました。あなたご自身が御前で私の栄光を現してください。世界が始まる前に一緒に持っていたあの栄光を。私はあなたのことを彼らに教え、私の成し遂げたことも彼らに伝授しました。

世間が私を憎んだ様に真実を知った彼らも憎まれるでしょう。彼らはこの世界に属する者ではありません。私がお願いすることは、あなたが彼らをこの世から取り去ることではなく、悪い者から守ってくださることです。


私は悲しみのあまり死ぬほどです。

私があなたと共にいる様に、彼らも私と共にいられます様に…。どうか、天の父よ、私を愛してください。あなたの偉大なる愛を彼らの中に、そして彼らの中にも私がいることが出来ます様に…。




イエスは、全ての人々の罪を背負う
為にこの世に来たのだが、いよいよそ
の時が迫った時、この世の全ての人々
の罪を背負い、十字架に掛けられ殺さ
れることを嘆き屈辱の念に陥った。


天の父よ、どうか出来
ることならば、この苦しみの杯
を飲むことがないようにしてく
ださい。しかし、私の心はそ
う願わずとも、あなたの意
に従います。



天の父よ、
私がこの苦難の杯を飲
まずに済むよう取り除
いては頂けませんか。



しかし、私
の願いではなく、
みこころがなり
ますように。



突然、天の使いが現
れ、イエスを力づけた。


聖なるお方、
いよいよ苦難を受け
られる時が来ました。
しかし、お父様が傍にお
られます。あなたが世界
中の人々の罪を背負う
明日、天使の軍勢が
見守っております。

イエスは大量の
汗を流した。

私共は世界の創始の時か
ら見ておりましたし、あ
なたが世界を救われるそ
の日に、あなたと共に
そこにいます。

明日、サタンは打
ち負かれ罪は償
われる。

「あなたは私の前に食卓を整
え、頭に香油を注いでくださ
います。私の杯は、あふれて
います。まことに、私のいの
ちの日の限り、いつくしみと
恵みが私を追って来るでしょ
う。私はいつまでも主の家に
住みます。」



さあ、立ち上が
るのです。滅びの子、
ユダがあなたを裏切
ろうと近づいています。



天の父よ、
私は今、この時の為に
この世界にやって来た
のです。



何故、眠っているの
ですか。あなた方は、ただの一
時でさえ私と共に祈って下さら
ないのですか。起きなさい、私が
裏切り者に売り渡される時が
来たのです。



師よ、こんな
場所でお会いでき
るとは…。残
念なことには尾
行されたようです。



ユダ、あなた
は口づけで裏
切るのか。



ユダ、この裏
切り者！

反抗す
る奴は皆殺
しだ！

待ちなさい！
一体、あなた方は
誰を探しているの
ですか。



ナザレのイエスだ。

わたしである。



気をつけろ！
こいつは神力を持っているぞ。

兵士達はイエスに
恐れをなして地面
に倒れこんだ。



奴がイエスだ！
何を怖気づいているんだ！
捕まえろ！



ご主人様には指一本触れさせんぞ！



ザクツッ！

ぎゃああ〜っ！



やめなさい!もう血を流すことはいけません。ペテロ、刀をしまいなさい。その気になれば、私は1万もの天使の軍勢を呼ぶことが出来るのです。今は暗黒の時なのです。

耳を切り落とされたっ!



あなた方は、まるで私が犯罪者の如く刀を持って捕らえに来たようですが、私はあなた方と一緒に神殿にいましたのに、何故その時に捕らえなかったのですか?教えてあげましょう、預言の書に書いてあることが現実となるためなのです。



神よ、助けてください!



さあ、元通りになった。



必要なのは私だけでしょう。私達は抵抗などしません。私だけ捕らえ、他の者は開放しなさい。



奇跡だ!耳を元に戻してくれたぞ!耳が元に戻ったぞ!



奴らを抑えろ!一人残らず捕らえるんだ!逃すんじゃないぞ!

さあ、行くぞ。

弟子達は全て、闇の中へと逃げ去ってしまった。



さっさと歩くんだ！
人々が聞きつける前に
終わらせたいそうだからな。

彼らはイエスを、司祭
達や証人達が集められ
ている処へ連行した。

聞くところによれば、
そなたは自分を救世主であり、
神はそなたの父親だと言っ
ておるそうだな。この世の人間
ではないということなら、そ
なたは一体何処から来た
と言うのか。



シナゴークや神殿で
何度も教えを説いてきたでは
ありませんか。こそこそ隠れて
教えを説いていた訳ではありま
せん。何故、私に聞くのです
か？私の話を聞いていた人に尋
ねれば分かることです。




ガッン！

それが大祭司
に向かって
言う言葉か！

この男の言
うことに反論のあ
る証人を連れて
来い。

私が間違っ
たことを言っているのなら
何が間違っているか、そ
れを説明してごらんさ
い。正しいことを言っ
ていると思うなら、何故
私を打つんですか？




この男は、神殿を破壊しても三日の内に手を付けることなく立て直してみせると言いました。

いや、違うね。誰かが神殿を壊しても立て直すと言ったんだ。


バカな! 自分の身体をどうやって三日で作直すんだ?

お前達はその場にいなかっただろう。俺はこの耳で聞いたんだ。神殿を破壊する云々の話しの時に、確かに彼は自分を指して言ったんだ。彼は自分の身体のことを言っていたんじゃないのか。

知るもんか! 三日で神殿を建て直すことだって、どうやるのか分かるわけないさ!




非難されているというのに、そなたは何も答えなくてもよいのか?




イエスは沈黙を守った。

気が違った奴に何も答えられる訳がない。



そなたに命ずる。神に誓って述べよ、そなたは神の子キリストなのか?


いかにも、私は神の子です。あなたがたは今から後に、人の子が力ある方の右の座に着き、そして天の雲とともに来るのを見ることになります。



もうこれ以上証人は必要ない! ここにいる者は各々の耳で聞いたはずだ。この男は自分のことを神の息子だと言い、神を冒涇した。よって、この男は処刑に値する。

目隠しをしる。預言者とやらの成り行きを見ようじゃないか。


祭司は自分の衣を引き裂いた。それは、まるで悲しみで溢れんばかりの彼の心の様であった。



痛めつけてやれ！
よくも俺の商売の邪魔
をしてくれたな！

あの様
で預言が出来
るか見物だぜ。

奇跡を
起こして
みるよ！



あの様を
見るよ！

ドスツッ！


もう一度殴っ
てやれ！

今、誰が
お前を殴ったか
預言者ならば言
い当てられるだ
ろう？

ドスツッ！


奇跡で
その傷を治
してみろ！

その頃、神殿の外ではペテロがイエスの後を離れて追って来ていた。




あなた、
見たことがあるわ。
ほら、イエス様と一
緒にいらしゃった、
お弟子さんの一
人よね？

イエスなん
て知るもんか。私は
只、何事が起こった
のか見に来ただけだ。




俺は、
庭園で今夜あなた
を見かけたよ。あ
なたはお弟子さん
の……


あんた、
おかしいんじゃないか？私は身分の
低い只の漁師だ。
イエスなんて知ら
ないなあ。




いいえ、あなたは確かに
お弟子さんの一人よ。何度か
見かけたことがあるもの。




うう、あの…
その…、ご婦人よ、
私は今までイエスなん
て男とは会ったことは
ないんだ。




コッケコッコー
コッケコッコー



今朝は鶏がやけに
早く鳴いたもんだな。




イエスが連れて行かれる
ようだ。ありや、
かなり酷く殴ら
れたな。



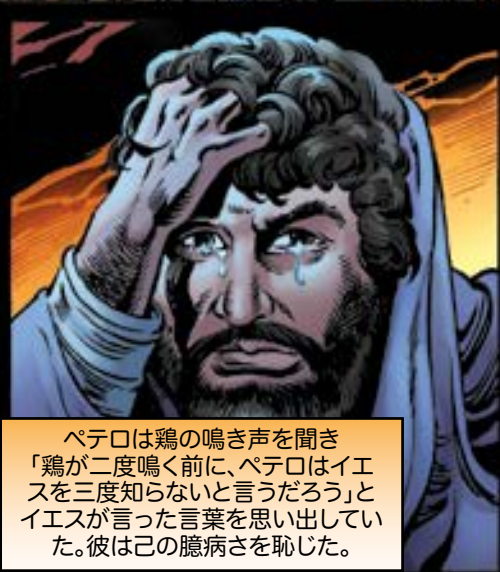
民事裁判で
判決を下すらしい。




鞭で打っ
てやれ!



偽善者達は、
自分達の手は汚した
くないんだ。



ペテロは鶏の鳴き声を聞き
「鶏が二度鳴く前に、ペテロはイエ
スを三度知らないと言うだろう」と
イエスが言った言葉を思い出してい
た。彼は己の臆病さを恥じた。




九尾の
猫鞭の刑だ!

神よ、私はなん
という事をしてしまったので
しょう。イエス様の言われた
様に、三度も知らないと言っ
てしまった。何故、こんな
に…。何故、師はこんな
苦難を……

逃げ!
一晩中そうして
いるつもりか!


天の父よ、
私に強さを……



こんな所で何をし
ておるのだ。お前が師を
裏切った代償は十分に支払
ったはずだ。

気が変わ
った!金は返
す、だからイエ
ス様を逃がして
くれ!

そんな血塗られ汚れた金に
触れられる訳ないだろう!お前の師は、
日付が変わる前に死んでしまうのだ。
もう恐れるものは無いだろう?お前
には未だ他の使徒を探し出す仕事が残っ
ているのだ。




金を受け取れ!
私はいらぬ。
自責の念に縛られ生き
ていくのは御免だ!

チャリン!
チリン!



愚かな
奴め。



もう生
きてはいけ
ない。



神よ、私はなぜ、こんなことを？



何故、欲望に勝てなかったのだろう。



死ねば安らかにいられるかもしれない。



彼を見かけた時には、もうどうしようも出来なかったんだ。

とにかく急げ、木から降ろそう。未だ息があるかもしれない。



男達がユダを助けに木に登ったが、彼の魂はすでに破滅の炎の中に落ちて行った。



彼を降ろすから捉まえてくれよ。さもないと、ここは断崖絶壁だからな。



とてもじゃないが無理だ!



なんてこった!
身体が裂けて、
内臓がそこじゅう
うに散らばっち
まった!

ううっ… 吐きそうだ。

これも聖書に
預言されていた。

また、異端者が
何か連れてきたの
か?そなたたちの法
で裁けばよいで
はないか。



この者が死刑に値する
者でなければ、あなたの元へ連れ
て来ません。我々に、死刑の判
決を下す権限がないことはご存
知のはず。ですから承認
を頂きたい。

自分は王だ
と主張して
おります。

その罪と
は何だ?

お前はユダ
ヤの王なの
か?

私はこの世界の王ではなく、
私の王国の王です。私がこの世
界の王であるならば、弟子達は
私を救う為に戦うはずです。



ならば、
お前は王とい
うことなのだ
な?



ですから、
私は真理を証明する為
に、この世界に来たの
です。真理に属する者
はみな、私の声に聞き
従います。



処刑にする
ほどの罪には思え
んが…

張りつけに
しろ!張りつけだ!

連れて
行って鞭打
ちにしろ。

鞭は何回だ？

最大の
39回だ！

伝道師さんが、
どこまで耐えられる
か見せてもらおうじ
ゃないか。

九尾の猫鞭とは、90センチ程の長さの革紐を編み、その革紐の先に尖った岩石、または骨や金属をくりつけた物を九本、それらを約46センチ程の木製の持ち手に付けた鞭のことである。

うわああつ！

もっと強く！

弟子とやらはどこ
に行っただい？

情けを請
わないのか！

バシッ！

これで、
奴の命も奇跡とやら
も遂に終わりだ！

35

36

37

38

39



背中はめ
ちゃくちゃだ。

俺は一度でい
いから、王を鞭打ち
してみたかったんだ。



王と言う
なら、紫の衣
を着せてやろ
うじゃないか。

冠も必
要だろう。



あっははは、
冠にピッタリの
物があったぞ!

痛っ!



さあ、
これはお前のし
ゃくだ。いいぞ!
はははっ

冠をしっ
かりと頭に乗
せてやれ。



俺達がお
前を世界の王に仕
立ててやったぞ!

あああああっ!



さあ、
真っ直ぐ
に立て!

ほら、
王様よ。しゃ
くも、しっか
り持て。

はははっ、王
よ永久に!

いいぞ、
一夜限りの王様
だ!



ローマ
帝国の王様には髭
は要らんだろう。



よ〜しっ、
これで王らし
くなったぞ。



くそ面白
くも無い! 情けを請
うこともしない。
ピラト様のもとへ
連行だ。



見よ、そなた
達の王だぞ。

我々の
王はローマ
皇帝のみ!

この男を見よ。
私に一体どうし
て欲しいんだ?

十字架に
つけろ! 張り
付けにしろ!



では、そなたら
で張りつけにすれば
良いではないか。こ
の男にそれ程の罪が
あるとは思えん
が...



罪がない?
どういうことす
か? 奴は自らを神
の子だと言っ
てるのですよ!



神の子だ
と? ここへ連
れて来い。



そなたは一体何者だ？
何故、答えんのだ？生かすも
殺すも我の力にかかっておる
のだぞ。

上から与えられ
ていなければ、あなたは
私に対して何の権
威もありません。



皆の者、
聞くがよい。この男
は処刑に値するよう
な者ではない。よっ
て彼は釈放とする。

釈放な
どすれば、あなた
はローマ皇帝
の敵ということ
ですぞ！



十字架に付けろ！
張り付けだ！



もうよい！
彼を連れて行け、好きなように
するがよい。しかし、言うてお
くが、我はこの男の処刑に関し
ては一切無関係だ！



ペテン師を張り
付けに！

奇跡と
やらはどうし
た？



奴にはそんな力はもう残ってないさ。

ドサツ!
ズブツ!



立て！
鞭を食らいたいのか！

おい、
そのお前！
十字架を背負うの
を手伝ってやれ。

なぜ、私
が…



この人は
何をした
んです？

皆を愛し
過ぎた結果さ。



ああ、イエス様…
なんということ。

エルサレムの婦人方よ、
私の為に嘆かなくてよしい。
嘆くなら、あなた方自身や子供達の
為に嘆くべきです。やがてエルサレ
ムに下る恐ろしい制裁と死に対して
泣くべきなのです。



イエスは自らの死に場所である丘へと十字架を運んだ。その日、他に二人の盗人が各々の十字架を運んだ。

イエスを心から信頼し、愛する者は大勢いたが、彼らはそのことを口に出すことを恐れていた。



さあ、これを飲め。痛みが和らぐぞ。

いいえ、天の父が命じておりません。

この期に及んでも、未だ神の子だと言ってるのか!



しっかり伸ばせよ!

金づちと釘を持って来てくれ。



抑えてろよ。最初の打ち込みで動き回られると面倒だ。釘が骨の間を突き抜けて、板に完全に食い込むまで抑え続けるよ。



やめてえ〜! イエス!

ガンン!

ズシッ!



なぜ、こいつは自分が神の子なんて言ったんだ?

古い預言の書がどうのこうの、言っていたが俺達の知ったこっちゃない。



両足をしっかり押さえる! 骨と骨の間を突き抜けるまでには、何度か打ち込まなくてはならんからな!



マリヤ、私にはもう耐えられません。

こんなことになるなんて...

者ども、引っ張れ!

もっと力を入れんか! 情けない奴らめ!



お父様、彼らをお赦し下さい。彼らは自分達が何をしているか分かっていないのです。

ヨハネ、あなたがいてくれて良かった。酷すぎます。

我々、全ての者がイエス様を見捨てたのです。



イエスの衣だ。俺はこれをもらおう。

いや、駄目だ！
切り裂いて四つに分けよう。

これは編んであるから分けるのは無理だな。

くじで決めりゃいいさ。

それは「彼らはくじで衣を分け合う」という預言の通りであった。



サイの目の、多いものを出した者の勝ちだ。

レオ、
気をつけるよ血が掛かるぜ。



彼は他人を救っても、自分を救うことは出来なかったのか。

おい、イエス。
お前は、神殿を破壊しても三日で建て直すと言ったな？ならば、十字架から降りる事なんか簡単だろ？

イスラエルの王、キリストさんよ、十字架から降りて我々を納得させてみるよ。

神が助けに来てくれるんだろ？喜べよ、神が助けてくれるのなら。

ペテン師！



さあ、これを口に含め。痛みが軽くなるぞ。

結構だ。



お前がもし、神の息子なら十字架から降りて奴らを殺せ!

お前は恐れ多くも、そんなことが神に対してよく言えるな。もうじき死ぬって分かっているのか?



俺達は殺されて当然の事をした。しかし、このイエスは悪いことは何もしていないじゃないか!

イエスよ、あなたの御国においてになるときは、わたしを思い出してください。



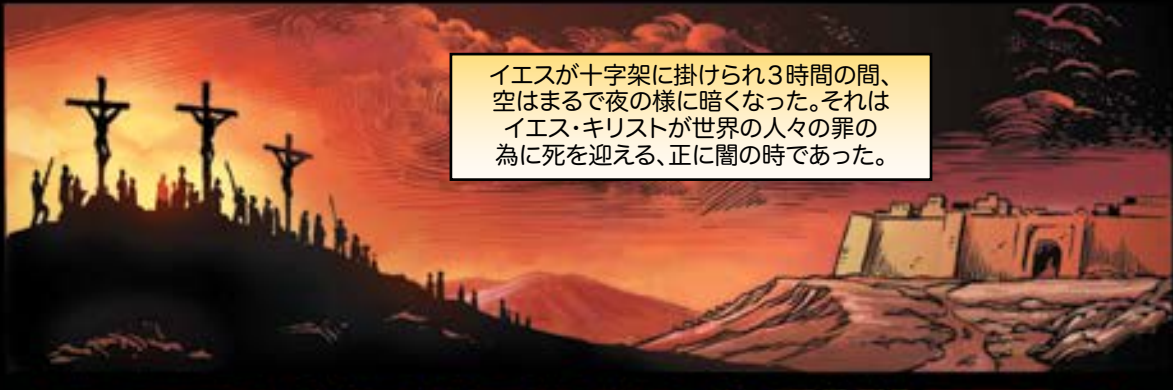
今日のこの日、あなたは私と共にパラダイスにいます。




ヨハネ、母上を頼みましたよ。

はい、確かに...

ああ、イエス。なぜなの?




イエスが十字架に掛けられ3時間の間、空はまるで夜の様に暗くなった。それはイエス・キリストが世界の人々の罪の為に死を迎える、正に闇の時であった。



罪の重みが全てイエスの上に押しかけた時、イエスは叫んだ。

我が神、我が神、なぜわたしを見捨てになったのですか？

神はわたしたちのために彼を罪となさいました。



父よ、わたしの霊を御手にゆだねます。

ああ〜、ヨハネ！イエスが死んでしまう！本当に死んでしまうわ！



完了した！

そして、彼は息を引き取った。

その時突然、大きな揺れが起こった。

どうなっているんだ？空は闇のようになるし、次は大地が揺れた。

きっとイエスだ！ユダヤの王、イエスの仕業だ！

奇跡なんか死人に起こせる訳がないだろう！

空が明るくなってきた。なんと奇妙な日なんだ。

ああ、全くだ。丁度イエスが死んだ時だった。

本当に、この人は神の息子なんだろうか？

未だ、足の骨を折る仕事が残っているぞ。日没までに、彼ら全員の死亡を確認して十字架から降ろすようにとのことだ。明日は安息日だからな。

イエスの足は折らなくてよからう。もう死んでいるからな。イエスが死ぬ直前に言った事を聞いたか？奴は神に、我々が奴を殺す事を赦すよう祈っていた。俺は、彼が奇跡を起こす聖なる人物だと聞いた。

十字架に掛けられて死ぬこと、しかし骨は一つとして碎かれることがないということも預言の通りであった。そして予言は成就した。

そこで、兵士達はイエスを抜かして盗人の足の骨を打ち砕いた。

ガツン！



少なくとも、骨は砕かれずに済んだのね。

マリヤ、私はイエス様を埋葬するのを手伝ってくれる者を探して来ます。



安息日が日没と共に始まり、時間も遅くなっていた。遺体の埋葬も急がねばならなかった。



12使徒の中の一人ではないが、ヨセフという金持ちの男が自分の所有する墓にイエスを埋葬したいと願った。



じきに安息日です。私の所有する新しい墓に彼を安置しましょう。

ヨセフ、有り難く思います。良くして頂いて感謝しています。